

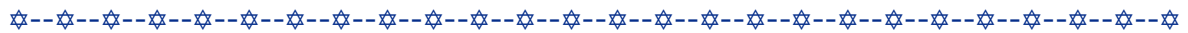


ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/05/25

いまさら聞けないウクライナ戦争シリーズ #2
ーウクライナに執着するプーチンの世界観とはー

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。YouTube 牧師として有名な松本牧師が、今体調を崩されて、入院先の病室から声だけメッセージを放ってらっしゃるんですね。

先日、それをお聞きしました。そしてビックリしたんですよ。

「今日5月23日 火曜日は私の誕生日です。62歳になりました」と仰ったんです。私もこの日が誕生日なんですね。

そして、ごうちゃんねるは5月23日に1回目スタートしたのでした。

ほんとに神様に愛され、立てられている器ですから、どうぞ松本牧師の完全回復のために、お祈りをよろしくお願いします。

メッセージに入る前に、アナウンスをさせていただきます。



ここに画集があります。『筑井孝子が描く聖書の世界 第6巻』。これは、全7巻で創世記から黙示録まで、旧約聖書・新約聖書全部の聖書の世界を油絵で描くという壮大なプロジェクトで、いよいよ第6巻ですよ。内容はマタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの福音書で、イエスがバプテスマのヨハネからバプテスマを受けたところから、十字架、復活に至るまで、キリストの生涯をこの1冊/20枚の油絵で描いています。

この1冊に四福音書の外せない名シーンが全部入っていて、しかも、キリストがエルサレムでゴルゴダの丘へ歩いて行かれるドロローサのマップ・12使徒の解説・エルサレムの現在の地図などが、油絵というイラストで描いてあるんですね。

そして、最後に私の聖書メッセージが付いております。どの巻も素晴らしいですが、正直、この第6巻が一押しです。クリスチャンの方がノンクリスチャンの方に、紙芝居のように1枚の絵を解説・説明しながらお話しできるのではないかと思いますので、ぜひご活用ください。

1冊800円ですが、伝道に使いたい方は10冊単位で1冊400円でお分けすると。ムチャクチャな発想ですけど、日本人にキリストを知ってもらえるならいいよ！という、太っ腹というか気前良いですね。“筑井孝子(つくいたかこ)”で検索していただいたら、インターネットで購入することができます。

さて今日は、**いまさら聞けないウクライナ戦争入門**の第2回目のメッセージです。今回は、“なぜプーチン大統領は、ウクライナにそんなにも執着するのか。彼の頭の中は、いったいどうなっているのか”についてお話しします。

彼の頭の中については、彼自身が、戦争の1年前2021年7月に歴史論文を書いたんです。彼は政治家ですよ。しかし、歴史論文を書きました。

タイトルは『ロシア人とウクライナ人の歴史的な一体性について』。
簡単に言うと、「今はロシアとかウクライナとかベラルーシとか別々の国になっているけど、元々は同じ兄弟姉妹民族なんだよ」と言っているわけです。

「ロシア・ウクライナ・ベラルーシは、歴史をずーっと遡ると、元々一つの国から分かれ出た。」これは間違いじゃないです。
元々の源流となる国はキエフ公国。キエフはロシア語読みで、今はキーウですね。

「今はそれぞれ独立国家になっているけど、元は同じでしょ。
それなのに、ポーランドやイギリス・アメリカなどの西側が、ウクライナに嘘や余計な情報を与えて、ロシアから引き剥がそうとしている。
そればかりか、ウクライナ国内にも、西側の侵略活動に呼応するような勢力がある。
これをそのまま指をくわえて黙っていたら、いったいどんなことになるか。」

これは、一つの体の半身をちぎられるようなもので、体の半分がちぎられたら、残りの半分も死んでしまうではないか。体に危害を加えられようとする時、そうさせまいとするのは、防衛本能として当たり前のことではないか。
今何もしなければ、ウクライナは永久にロシアから剥ぎ取られてしまうのだから、行動を起こすのは今しかない。」

ウクライナに対する侵略戦争を正当化するような論文です。
この歴史観については非常に大きな問題があります。自分に都合のいいところだけを取り出して、見なければならぬところを全部省いて行ってるんですね。

確かにロシア・ウクライナ・ベラルーシは、古代においては同じ国家でした。
ところが、日本では鎌倉時代の13世紀、アジアにとんでもない帝国が現れます。
モンゴル帝国です。モンゴル帝国は日本海の荒波を渡って日本にもやって来ました。

同様に、陸続きではもっとすさまじい勢いで迫ったんです。
彼らは騎馬民族で馬を持っており、馬具を発明しました。
馬具によって、乗り手が馬を自由自在にコントロールできるようにしたんです。
そして、ものすごい勢いでキエフ公国にやって来て、壊滅させたんですね。

壊滅した後、キエフ公国の東側はモンゴルの支配下に入りました。約250年間。
西側はポーランドの支配下に入ったんです。ポーランドの影響を受けるんです。
ポーランドは東ヨーロッパですが、カトリックの影響を受けているので、西ヨーロッパの窓口と言ってもいいでしょう。そういう影響です。
元々一つだったけれど、滅ぼされて二つに分かれ、それぞれをコントロールした国の性質が全く違ったということなんですね。

たとえば言うと、両親のもとに兄弟がいました。しかし、両親が外敵に殺された。
2人は孤児になってしまったので、兄と弟はそれぞれ別の里親のところでもつことになったんです。その里親たちの文化や習慣は、もう丸っきり違うんですね。

一方の里親は腕力的・暴力的・威圧的。モンゴルですよ。モンゴル軍が去った後にはぺんぺん草 1 本も生えないという、ムチャクチャな力があつたんです。ロシアは 250 年間モンゴルの支配下に置かれたことによって、振る舞い方や文化や発想がモンゴルのんです。ヨーロッパですがモンゴルの。しかし、ウクライナは西側の影響を受けている。

言うなれば、小さい時別々の里親に育てられ、20 年後 30 年後に大人になった 2 人が再会した時、血は繋がっているかもしれないけど、考え方がまるっきり正反対。「あんた、誰なん？」みたいな。

「元々は同じところから出て来た」とプーチンが言っていることは正しいけど、その後歩んだ道筋が全然違う。全然違うことによって文化が全く違う国になった、ということについては伏せているんですよ。

“昔 1 回でも自分の支配下にあつた国は、今独立国家でも、武力を使って侵略していい” という、そんな論理がまかり通ったら世界はどうなりますか。むちゃくちゃなことになりますよ。

例えば、昔 朝鮮半島は中華帝国の支配下にありましたね。ベトナムだってそうじゃないですか。越（えつ）という国だったんですよ。かつて中華帝国の支配下にあつたから、現在のチャイナが韓国に武力侵略してもオッケ、ベトナムを支配してもオッケなんて、だれが言いますか。

そんなことはしてはならないし、許されてはならないし、今は **“国際紛争を武力で解決してはならない”** という国際ルールの下に、私たちは生きているわけです。これは、ロシアのプーチンだって認めざるを得ないことなんですよ。彼はロシアのトップで、ロシアは国連の安全保障理事会常任理事国だからです。

第二次世界大戦であまりにもたくさん人間が死んで、こんなことやってたら人類は滅亡する。だから、国際紛争を戦争で解決するのをやめさせるために、特別大きな権限が与えられているのが安全保障理事会の常任理事国です。

ところで、国連でも認められている戦争があります。2 つ。

① 侵略戦争を受けた国が防衛のためにする戦争。

自分の国を守るための防衛戦争はもちろん OK。生存権があるので OK なんです。

今回、ロシアはウクライナに侵略されてない。ウクライナはロシアに侵略されてる。だから“戦争やっているから両方悪い”は違うんです！侵略した方が悪いんです！侵略された方がそれを追いつ返すために戦う戦争は、国連憲章でも認められていることです。

なので、“戦争当事者だからあっちも悪い。こっちも悪い。喧嘩両成敗”という考え方は全くの間違いなんですね。

② 国際秩序を守るために安全保障理事会で合意された戦争。

この場合は国連機関の代表というか、戦争が許されることになっています。

今回は明らかに侵略戦争ですが、安全保障理事会に掛けても合意が取れません。安全保障理事会常任理事国は、他の国々にはない特権をたくさん、例えば拒否権を持っているんです。

ロシアは安全保障理事会常任理事国だから、絶対に拒否権使いますよ。

安全保障理事会常任理事国は、侵略戦争をやめさせるためにそのポジションに就いている。その当事者が侵略戦争をやっているわけだから、もうムチャクチャです。

これはNPT条約（核兵器不拡散条約）についても言えるんです。

核兵器を持っている国々が「核兵器を持つ国がこれ以上増えないように、核を持たないようにしてください。」これに対して「不公平じゃないか。」

そこで、「核兵器を持っている国は持っていない国に対して一切使わないし、脅しのためにそれを用いることはしません。なので、今核兵器を持ってない国は持たないでください。」これがNPT条約です。

ロシアは「事と次第によっては、ウクライナに戦術核を使う」と言っているじゃないですか。これはNPT条約を全く骨抜きにする発言なんですよ。

世界中がもっと怒るべきですよ。ほんまに。

安全保障理事会の理念を骨抜きにし、NPT条約の理念を骨抜きにしている。

これが今のロシアのプーチンです。

ですから、このことを私たちは見逃してはならない。見過ごしてはならない。

どんな事があっても、ロシアを勝利させてはならないということになるんですね。

さて、もう少し予備知識を持つことで、このウクライナ戦争について理解を深めることが出来ると思いますので、今しばらくこのシリーズを続けて行きます。

よろしければ、またご覧ください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた とうちゃんねるでお会いしましょう。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！